

## 2 1 優良種苗供給体制強化によるにんにく産地の再構築

### 【概要】

にんにくの生産者段階における種苗増殖技術の普及や、乾燥障害発生リスク低減のため、県重点事業を活用し、下記の取組を実施した。

- ・生産者段階における種苗増殖技術実証ほ（2か所）を設置し、ウイルス罹病状況等を調査した。
- ・病害虫診断を実施し対策技術を個別指導した。
- ・乾燥中の現地巡回により問題点を改善指導した。

### 【背景・課題】

- ・優良種苗の供給量は需要を満たし切れず、生産者は導入した優良種苗をイモグサレセンチュウ非汚染ほ場でウイルス感染防止対策を実施しながら、自家増殖する必要がある。
- ・増反等により、乾燥施設の適正処理量を超えた処理による乾燥障害の発生が散見され、販売用・種子用ともに適正な乾燥技術の徹底が必要となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- ・生産者段階における種苗増殖技術実証ほのウイルス抜取り状況と罹病率等を調査し、伝染状況を明らかにした。
- ・病害虫や障害の診断依頼に対し、診断と対策の指導を行った。
- ・収穫物の乾燥期間中にその状況を巡回で確認し、『乾燥チェックリスト』と赤外線サーモグラフィを活用して問題点を明確化させ、改善方法を指導した。

### 【成果】

- ・生産者段階における種苗増殖ほ場では、ウイルス罹病株の抜取りが不徹底であり、伝染源となって再感染していることを講習会で生産者に周知した。
- ・診断の結果、線虫被害が確認された生産者に防除対策技術を個別指導し、次作の対策に結びつけた。
- ・乾燥施設のサーモグラフィ画像は温度ムラの様子が一目で分かり、乾燥上の障害の改善につながった。

### 【対象名】

- ・J A ゆうき青森野菜振興会にんにく部会
- ・J A ゆうき青森野菜振興会種子部会にんにく部門
- ・上北にんにくプロジェクトチーム



採種ほ場のウイルス検査



赤外線サーモグラフィで観測した乾燥施設の温度ムラ



病害虫診断（線虫）

## 2 2 水稲(主食・飼料用)の省力技術導入及び飼料用米専用品種の作付拡大

### 【概要】

水稲の低コスト・省力栽培技術として高密度播種移植栽培と直播栽培(湛水・乾田)の導入を支援した。

また、飼料用米専用品種の品種特性や栽培法を周知し、専用品種への切替えを誘導した。

### 【対象名】

- ・(農)赤沼営農組合
- ・(農)中矢営農組合
- ・十和田アグリ(株)
- ・(有)みらい天間林
- ・(農)フラップアグリ  
北三沢

### 【背景・課題】

- ・水稲の低コスト・省力栽培として、乾田・湛水直播栽培、疎植栽培の普及拡大に取り組んできたが、新たに高密度播種移植栽培(密苗、密播)が注目され、栽培面積が急激に増加している。
- ・管内の飼料用米栽培は、異品種混入の問題から主食用米での取組が多く、平成30年度から主食用品種に対する県の産地交付金の配分が廃止されたことで、農家所得の減少が懸念される。

### 【普及指導活動の内容】

- ・省力栽培展示ほを4か所、飼料用米品種展示ほを2か所設置し、現地検討会を3回(8・9月)開催した。
- ・講習会時に飼料用米栽培のポイント等や混入防止の栽培体系を説明するとともに、地域再生協議会へ情報提供した。
- ・展示ほ成績検討会を開催(1月)した。

### 【成果】

- ・管内の省力・低コスト栽培(直播栽培、高密度播種移植栽培)面積は平成30年の705haから950haに増加した。
- ・管内の飼料用米専用品種作付割合は平成30年の66%から69%に増加した。
- ・飼料用米有望系統(青系201号)の収量性が直播栽培でも既存品種を上回ることが確認され、担当農家から高い評価が得られた。



飼料用米現地検討会



高密度播種移植栽培現地検討会



飼料用米現地検討会

## 2 3 夏そば新品種「夏吉」の導入による上北そばの知名度向上と産地の拡大

### 【概要】

県民局事業(R1~2)を活用しながら、夏そば新品種「夏吉」を導入して県内他産地との差別化を進めることで、上北そばの知名度向上と産地の拡大に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- ・上北地域は転作作物として秋そばの栽培が盛んであるが、近年は、栽培面積や収穫量が減少傾向にある。
- ・こうした中、秋そば新品種「にじゆたか」の導入による上北そばの知名度向上を図ってきた。

### 【普及指導活動の内容】

- ・上北そば活用推進協議会を開催(3回)したほか、夏そばのPRイベント(2回、9・10月)を実施した。
- ・「夏吉」の栽培技術実証ほを設置して生育特性を把握するとともに、現地検討会を開催(7月)して、その周知を図った。
- ・管内そば店8店舗にサンプル(そば粉)を提供し、麺打ち特性の把握とPRイベントへの参加意向調査を行った。
- ・製麺業者に委託して試作した業務用そばの試食アンケートやそば打ち体験を通じて、「夏吉」をPRした。

### 【成果】

- ・は種量を増やすことにより、雑草対策の軽減と単収の増加につながった。  
単収(10a) : H30 34kg → R1 108kg
- ・「夏吉」のそば麺加工特性や食味評価が高く、通常営業で取扱いしたいという店舗が数軒あったことから、次年度の作付面積が約1haに拡大する見込みとなった。

### 【対象名】

- ・上北そば活用推進協議会
- ・(農)中矢営農組合



夏そば現地検討会



夏そば試食・PR(野辺地町)



知事と夏そばの試食



## 2 4 乳質改善共励会の活性化による酪農経営支援

### 【概要】

酪農経営支援を効率的に行うため、乳質改善共励会の現地審査項目の見直し、その審査結果を関係機関で共有して連携を図りながら、牛舎環境改善の支援や乳房炎原因菌の対策に取り組んだ。

### 【対象名】

・ J A ゆうき 青森 酪農家90戸

### 【背景・課題】

- ・ 飼料費の高止まりの中、乳量や乳質の安定生産は、酪農経営の重要な課題となっているが、その支援体制が手薄になってきている。
- ・ こうした中、長年実施している乳質改善共励会の現地審査内容を見直し、関係機関が一体となった支援体制の構築が急がれていた。



牛舎改善の現地指導

### 【普及指導活動の内容】

- ・ 乳質改善共励会の結果に基づいた牛舎の改善支援のほか、生乳品質に大きな影響を与える乳房炎の原因菌検査を行い、その結果から、搾乳衛生や飼養環境改善(牛床・飼槽・飲水・換気等)を支援した。
- ・ 冬期の洗浄温度が乳房炎原因菌の増殖要因の一つとなっていたため、現地巡回(9～12月)や生乳の風味に関する研修会(10月)を実施した。



改修された飼槽

### 【成果】

- ・ 乳質改善共励会の審査結果や乳房炎原因菌検査に基づいた、搾乳衛生や飼養環境改善の支援を実施した結果、乳量や乳質の安定生産が定着しつつある。

乳質Aランク率：H30 54% → R1 54%

個体平均乳量：H30 8,444kg → R1 8,464kg



牛舎改善研修会

## 25 農山漁村の女性が活躍できる環境づくり

### 【概要】

女性が活躍しやすい農村環境づくりのため、農山漁村の活性化に取り組む女性リーダーの育成や、農山漁村女性による起業活動や地域貢献活動の推進、家族経営協定の推進、女性が働きやすい環境づくり等に取り組んだ。

### 【対象名】

管内女性農業者  
 ・VIC・ウーマン65人  
 ・かみきた畑美人73人  
 ・かみきた農と暮らしの研究会35人  
 ・女性起業志向者等

### 【背景・課題】

- ・管内では、現在63人がVIC・ウーマンとして活動しているが、その数は10年前より20%減少している。
- ・管内の基幹的農業従事者の焼く半分は女性であるにも関わらず、その意見が反映された働き方になっていない。

### 【普及指導活動の内容】

- ・農村女性リーダーや若手女性農業者を対象としたスキルアップセミナーの開催（2回）
- ・かみきた畑美人交流会の開催（2回）
- ・女性起業活動実態調査、起業志向者等に対する個別相談の実施
- ・女性起業セミナーの開催（2回）
- ・家族経営協定の啓発活動と協定締結支援

### 【成果】

- ・市町村やVIC・ウーマンと連携し掘り起こした候補者に対して、調書作成等を支援したところ、新たに3名が認定された。
- ・女性起業志向者に対し、商品化に向けた容器や作業性の検討、補助事業の相談に対応した結果、1名が新たに起業活動を行うことになった。
- ・農業委員会事務局と連携し、家族経営協定の啓発活動を行った結果、十和田市で2戸、三沢市1戸、七戸町1戸、東北町1戸が新たに家族経営協定を締結した。
- ・セミナー等で農作業環境改善事例集を配布・啓発した結果、働きやすい環境づくりについて意識が高まった。



かみきた畑美人交流会



スキルアップセミナー



家族経営協定調印式

## 26 農福連携による障がい者の農業就労の促進

### 【概要】

県重点枠事業(H30～31)を活用し、管内農協や農福連携に理解のある福祉事業所と連携して、農福連携の推進に係る情報収集や農業者と福祉事業所のマッチングに取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 障がい者の就労促進と農業分野における労働力の確保を図るため、福祉事業所・農業者双方の更なる理解と双方の多様なニーズに対応できる情報を蓄積
- 共有する仕組みづくりが必要。

### 【普及指導活動の内容】

- 農業者、福祉事業所を対象としたレベルアップ研修会を3回開催したほか、福祉事業者等の依頼に応じて見学会や体験会等を実施した。
- 管内農協に業務委託して、農業者の意向調査、農作業可能な福祉施設とのマッチングを行った。
- 普及指導員調査研究で、障がい者向けの夏秋いちごの摘葉作業のマニュアルを作成したほか、障がい者が効率的に作業できる方法等を検討した。
- 農福連携の推進体制等について検討するため、農協、福祉事業所、市町村等を参集し、連絡会議を開催した。

### 【成果】

- 研修会の開催や農協への委託により、農業者と福祉事業所の今年度の新規マッチング件数は3件となった（ながいも支柱設置、にんじん収穫、ごぼう収穫）。
- 障がい者継続支援B型事業所の受託作業の取りまとめを行う「共同受注窓口」と作業委託を希望する農業者の取りまとめを行う「農協」が中心となり、農福連携の推進体制が整備された。
- 来年度は、2件の作業受委託契約が結ばれるほか、作業受委託に向けた新しいマッチングが行われる予定である。

### 【対象名】

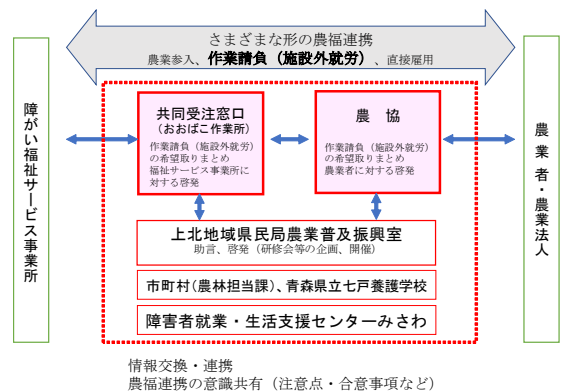
- 管内福祉事業所
- 農協、農業者等



レベルアップ研修会（ながいも支柱設置）



加工施設でのながいもの皮むき体験会



上北地域の農福連携の推進体制